

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：保健予防費 目：感染症予防費

事業名 風しん検査事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部感染症対策推進課 感染症対策第二係 電話番号：058-272-1111(内 4655)

E-mail: c11237@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 17,724 千円 (前年度予算額：23,116 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	23,116	11,558	0	0	0	0	0	0	11,558
要求額	17,724	8,862	0	0	0	0	0	0	8,862
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

平成25年の風しんの流行により、全国で14,000人以上の風しん患者と32人の先天性風しん症候群患者が報告され、平成20年の全数把握調査の開始以降、最大の流行となった。また、平成30年には、ワクチン接種が十分にできなかった世代を中心に風しんが流行し、2,900人以上の風しん患者が報告された。今後も、全国でワクチン接種が十分にできなかった世代を中心に再流行し、先天性風しん症候群患者の発生が懸念されている。

(2) 事業内容

先天性風しん症候群の予防を主たる目的に、予防接種が必要である風しん感受性者を効率的に抽出するため、抗体検査を医療機関で実施する。

対象者：妊娠を希望する女性

妊娠を希望する女性の夫、同居者

風しん抗体が十分でない妊婦の夫、同居者

2,600人

(3) 県負担・補助率の考え方

国 1 / 2 県 1 / 2

(4) 類似事業の有無

平成25年度（7月1日開始）、先天性風しん症候群の発生を防止するため、出産を希望する女性、妊娠している女性の夫、2回の定期接種の機会を与えられなかった世代の男性を対象に風しん予防接種の費用について、市町村と協調して、その一部を助成した。

<助成対象者>

○23歳以上（H2.4.1以前生まれ）の妊娠を予定・希望している女性

○妊婦の夫（胎児の父親）

ただし、次の人を対象外とする。

- ・風しんにかかったことがある人
- ・風しんの予防接種履歴がある人
- ・妊婦健診で風しんの抗体が十分にあると判定された妊婦の夫

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額（千円）	事業内容の詳細
需要費	200	検査受診時の問診票、風しん抗体検査の案内リーフレット
委託料	17,524	医療機関における風しん抗体検査 検査費用 @6,740×2,600件
合計	17,724	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 国・他県の状況

厚生労働省は令和3年度も継続する意向を示している。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

先天性風しん症候群の予防を主たる目的に、予防接種が必要である風しん感受性を効率的に抽出し、県内での先天性風しん症候群の発生を防ぐ。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移	現在値	目標	達成率
風しん抗体検査実施数	(H)	2,878 件 (H30)	2,401 件 (H31)	2,600 件 (R3)	92.3%

○指標を設定することができない場合の理由

--

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

先天性風しん症候群を予防するため、妊娠を希望する女性、妊娠を希望する女性の夫または同居者及び風しん抗体が十分でない妊婦の夫または同居者に対し、風しん抗体検査を実施し、抗体価が低い者に風しんワクチンを接種した。

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

令和2年4月から8月分は、新型コロナウイルス感染症の影響により検査者が減少した。過去3年間の検査人数から推計すると、令和3年度は2600名の受検者が見込まれる。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い 	
(評価) ○	<p>平成25年の風しんの流行により、全国で14,000人以上の風しん患者と32人の先天性風しん症候群患者が報告され、平成20年の全数把握調査の開始以降、最大の流行となった。また、平成30年には、ワクチン接種が十分にできなかった世代を中心に風しんが流行し、2,900人以上の風しん患者が報告された。今後も、全国でワクチン接種が十分にできなかった世代を中心に再流行し、先天性風しん症候群患者の発生が懸念されていることから、事業の必要性は高い。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度の検査件数は減少している。過去3年間の検査件数から試算すると、令和3年度は2,600名の受検者が予想される。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある 	
(評価) ○	<p>過去の抗体検査の結果、十分な量の抗体があることが判明した場合は、本事業の対象から省いて実施している。本事業では受検者の半数に風しん抗体が十分でないことが判明している。</p>

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>風しんの再流行に備え、早期に風しん抗体価の低い女性やその夫、同居者、風しん抗体価の低い妊婦の夫等を発見するため、事業周知に努める必要あり。</p>
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>厚生労働省と連携し、風しんの流行状況等を見極めながら、実施していく。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	【○○課】
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	